

岩手の生協の今をお伝えする

岩手の生協

VOL.42 2016.8

岩手県生活協同組合連合会

〒020-0690 岩手県滝沢市土沢220-3

☎019-684-2225 / ☎019-684-2227



第51期通常総会を開催



ヒロシマで憲法や九条についてなど平和の活動を交流



「怒る富士」公演 震災を風化させない思いをあらたに



子ども医療費助成制度のさらなる拡充を求め署名を提出

特集

岩手県生協連 第51期通常総会報告

～ 県連50周年「平和・いのち・暮らし・地域・経営」の5つの危機に立ち向かい、地域に根ざし役立つ生協をめざしましょう ～

平和憲法・九条を考える全国生協組合員活動交流会を開催

被災地を忘れない、震災を風化させない ～ 前進座「怒る富士」岩手公演

■会員生協トピックス

- ・盛岡医療生協
- ・消費者信用生協

■岩手県生協連トピックス

- ・「安保関連法(戦争法)廃止署名」県内で18万筆を集約
- ・県連50周年記念事業 ～ 片山善博氏講演会

岩手県生協連

第51期通常総会を開催しました

「県連50周年」「平和・いのち・くらし・地域・経営」の危機に立ち向かい、地域に根ざし役立つ生協をめざしましょう

6月22日、代議員・オブザーバー・理事・監事の57人が出席し、第51期（2016年度）通常総会を開催しました。総会では、被爆終戦70年の平和の取り組み・被災地支援などの運動を行った「2015年度事業・決算報告」、平和を守り「戦争する国」づくり・憲法改悪に反対する運動や震災から5年の復興支援などの重点課題をすすめる「2016年度事業計画・予算」、「監事監査規則変更」など7つの議案が審議され、全議案を満場一致で採択しました。

《今年度の取り組みの基調・重点》

今、組合員のくらしは、収入や年金は増えず、重い税金や物価高、社会保障費、教育費が家計の負担増となり、就職難や不安定な雇用、震災による地域経済への影響も大きく、厳しさを増しています。

さらに、現政権は「戦争する国」につながる安保法制を強行にすすめ、国会審議を軽視し立憲主義に反する独裁的な政治を押し進めています。

このような中、学生や子育て世代、女性たちが積極的に声を上げ、新しい市民運動が出てきました。主権者として声を上げよう、民主主義を取り戻そうと、平和をきっかけに関心が広がり、今まで運動をしてきた層との連携も広がっています。

生協も安心して暮らせる社会や地域をつくっていくため、生協の価値や使命にそって今後も役割を

発揮する必要があります。平和・

原発・TPP・消費税・被災地復興など、今の私たちの選択が次の子どもたちに影響する問題ばかりです。

16年度は県生協連50周年。組合員、役員にとって、岩手で生協運動が続き、発展してきたことを喜びあいながら、さらなる発展をめざし、「地域に根ざし役立ち・地域に信頼され・サポートされる生協」になるよう、事業・活動を積極的に広げます。

《みんなで取り組む重点課題》

①「平和・いのち・くらし・地域・経営」の5つの危機に、真正面から立ち向かう、組合員・県民参加の運動を、ネットワークを広げながら積極的にすすめます。

・「戦争する国」づくりや憲法改悪に反対する運動を、諸団体やネットワークといっしょに取り

組みます。

・被災地の要望にそった復興支援や、生活再建制度の拡充要求、地域づくりに取り組みます。

・社会保障制度の本格的な改悪や、消費税増税に反対し、くらしを守る運動を広範な団体と緒にすすめます。

・TPPに反対し、食・食の安全、医療など、いのちやくらしを守る取り組みを推進します。

・灯油運動をすすめます。

・食・食の安全、農林漁業を守り育てるための学習や運動をすすめます。

②生協運動・協同組合運動の果たす役割や使命を学び、話し合う取り組みを強めます。

・県連50周年の事業を通じ、生活

協同組合の価値や使命について内外に広く伝えます。会員生協は、この事業に参加、参画することで学習し、生協同士のつながりを深めることに役立てます。

・協同組合間提携でのつながりや協力を一層重視し、協同組合らしさの発信に努めます。

③「だれもが健康で安心して暮らせる地域づくり」をすすめます。



・地域のニーズにそいながら「だけれども健康で安心して暮らせる地域づくり」の実践を広げます。
・行政との懇談を通して、協同のある街・コミュニティづくりをすすめます。

・岩手県ユニセフ協会と共同してユニセフ活動を広げます。

④会員生協の運動・事業・経営に役立ち、県内に生協への支持・信頼を広げる県連の役割・機能を強化します。

・会員生協のきびしい事業・経営環境の中で組合員のくらしに役立つ事業が推進できるように、生協間の連携・提携を推進します。

・県生協連や会員生協の社会的活動を多くの県民やオピニオンリーダーに発信します。

・県生協連の民主的な運営や機関運営を強めます。

《山口発言 (福岡)》

盛岡医療生協 千葉仁志代議員

「特別養護老人ホーム建設」の取り組みについて、5月10日に「社会福祉法人いわて共同福祉会」として盛岡市より設立認可をいただいた。今後は2018年3月のオープンに向け、当面の運営資金の募金に取り組む。ぜひ皆さんにも協力をお願いしたい。



「健康チャレンジ」も年々参加者が増えており今年も2千人を目標に取り組むので、各生協でもぜひ取り組んでほしい。また、回を重ねるごとに後援団体も増え、今年も岩手県からもいただいた。全県あげて脳卒中全国ワースト1位返上をめざし取り組もう。

いわて生協 藤原真帆代議員

いわて生協では、昨年度は第7次中期計画の最終年度として計画を着実に進め、たくさんの方の暮らしの願いを実現してきた。花巻の「あうる店」のオープン、共同購入の利用者は6万9千人（毎週）、夕食宅配サービスを沿岸地域まで拡大し、1日千三百食を超える利用となっている。高齢者見守り協定も29市町村と締結し、この3年間で51件の異変に対応している。被災地支援活動も多くの組合員の参加と協力、また全国の生協から支援もいただきながら継続することができた。

被爆・終戦70年として平和の取り組みを積極的に行った。組合員・常勤者ともに平和について学習し、「平和声カード」は5千枚、「安全保障関連法廃止を求める2千万人署名」は短期間で5万2千筆を集めることができた。

今年度は7月の前進座「怒る富士」公演の成功に向けて、各地域でチケットの普及の取り組みを進めている。社会の変化・くらしの願いから2020年ビジョンを補強し作成したいいわて生協第8次中期計画では「たすけあい支えあい、ともにつくるくらしの安心」をめざして取り組んでいく。生涯を通してくらしを支える事業を各事業や組合員活動の中ですすめていく。県生協連には様々な生協が加盟しているそのネットワークで、より良いくらしづくりを実現するためのリーダーシップを期待する。



消費者信用生協 小山大輔代議員

現在は岩手県と青森県で貸付と



相談事業を行っている。過去に債務整理や延滞等の事情により一般金融機関や貸金業者から借り入れができない方への家計相談や貸付事業を行っており、年間、電話相談も含めると3千件以上の相談を受けている。

最近県内では、高齢者に対しての振り込め詐欺が発生しているようだが、学習会や相談会は病にたとえると学習会は予防のためのワークチン、相談会は病気に対する対処法。これらを学ぶよい機会となるので県連にも相談会の周知の協力をお願いしたい。

岩手労済生協 菅原桂代議員

震災復興支援として、昨年度も「最後のお一人まで」共済金・見舞金をお支払いする取り組みを継続した。また、被災された防災士の講演会も開催した。協同組合連動の原点回帰の取り組みとして、「賀川記念館」及び「人と防災未来センター」等への訪問研修を



行ってきた。

全労済の熊本地震の取り組みについて、6月20日現在、被害報告の80%が熊本県内での被害で、そのうち90%程度は調査を終了し、火災共済や自然災害共済、慶弔共済の合計で83億5千万円をお支払している。

みやこ映画生協 櫛桁一則代議員

被災地無料巡回上映会は5年で383回、1万5千人を超える方に映画・楽しい時間を届けることができた。また、岩手県ユニセフ協会への支援をいただき、子ども向けや定番作品の上映の他、テーマを決めての上映会も行い、上映後ワークショップを開催するなど様々な取り組みができた。

そのような中、常設の映画館について、震災後も上映を続けてきたが9月末で終了することが決定した。今後は地域の要望を聞きながら地域に映画を届けたい。より地域に根ざした活動をしたいと考

えているので、引き続き支援をお願いしたい。



岩手大学生協 塚原英明代議員

震災から5年が過ぎ、震災を経験した学生はほぼ卒業し、防災意識などが低下している。岩手大学生協では毎月11日を「震災復興の日」と位置づけ、食堂では売り上げの一部を「未来大学応援募金」として沿岸被災地の高校生支援として寄付する活動を大学生協が中心となって行っている。昨年は35万6千円を「未来大学応援募金」へ送ることができた。

地産地消の取り組みとして、岩手の食材を使った主食の取り組みを行っている。学生の6割が県外



から来ており、岩手の食材にふれ、卒業後も利用・消費拡大につなげたいと考えている。今年度は県内各地の伝統食を提供し、引き続き地産地消の取り組みをすすめてい

岩手県学校生協 川村元代議員

昨年度の活動として、福利厚生研修会、子育てに関する権利と将来に向けた生活設計の学習としての子育て交流会などを開催した。

共済制度の内容について細かく説明・理解される機会がなかなか無いということがわかり、学校生協から講師を派遣し組合員を対象に、福利厚生研修会を開催した。昨年度から開催したが好評で、校長会から初任者対象にと要望があり、今年度は県の講習会の昼休み時間をいただいで開催した。県教育委員会からも次年度以降の継続の希望があり、学校単位での依頼に加え引き続き開催したいと考えている。

子育て研修会については育児休業中の職員対象に行っており、子育てに関する権利や制度の学習、家計や生活設計などについての講習・交流をする。こちらも大変好評で今年度は回数を増やして開催する予定。また今年度は「学校生

協ファン」を増やす取り組みをスタートして、組合員拡大をすすめていこうと考えている。



《意見・質問に対する理事会からの答弁 加藤善正会長理事》

特に質問はなかったが、各生協の発言を聞いて、活動が活発に幅広く行われていると感じる。

介護保険制度は当事者にはわからない問題がある。今の日本の介護保険制度の問題を広く見て考えるためには、盛岡医療生協が呼びかけすすめている「特別養護老人ホーム」を作って、経営しながらわかる問題点を情報共有しながら、運動を発展していけたらと考えている。



「戦争法廃止2千万人統一署名」について、岩手県内での署名数の半数近くが各生協で集められたものであり、生協の取り組みが評価される場所である。

みやこ映画生協の常設館の閉鎖が報告されたが、デジタル映像機購入の際に全国の生協へ県生協連としても募金をお願いした経緯があるので、支援のお礼と今後の方向性を全国の生協へ報告したいと考えている。

自分の生協の範囲だけでなく他生協とのネットワークを使いながら、地域で起きていた様々な問題に手を差し伸べて運動を広げる時代になっている。組合員の願いをかなえるため各生協の力を結集し、知恵を出し合い地域に根ざした運動を広げて行きましょう。



ライオンが檻から出たがっている?! 九条を考える全国組合員活動交流会を開催

憲法や九条について考え、語り合い、学ぶ輪を広げようと、組合員の全国ネットワークができたのは2006年。岩手県生協連が事務局を務めています。8月5日、日本生協連主催「ピースアクションinヒロシマ」での「虹のひろば」のあとの時間を利用して、広島グリーンアリーナ会議室で毎年交流会を実施しています。10回目の今年の交流会には、12生協から57名の参加がありました。

最初に世話人の土井律起さん（生協ひろしま顧問）から開会の挨拶。続いて、3生協（生協ひろしま、いわて生協、



いわて生協の発表は「元気がでた」と好評でした。

沖縄県連）から憲法の学習の様子、安保法制反対の署名運動をどうやったら分かりやすく伝え署名してもらえるか、沖縄で今起きていること…などの報告がありました。国家権力を「ライオン」、憲法を「檻」にたとえて、憲法とはどんなものを解説している「檻の中のライオン」は広島の弁護士さんが今年出版したもの。生協ひろしまでは、この本を使って普段意識することがないけれども私たちが守っている「檻」の価値、檻を出たがっているライオンの問題を知らせる平和カフェを開いています。

参加者アンケートには、「いわて生協の署名の報告がとてもよかったです。難しいことをやさしく、分かりやすく、諦めずに伝える方法が参考になりました」「平和を守るの主旨は私たちがと気付きました。やっと当事者意識が生



グループ交流では、全国各地の様々な取り組み交流ができました。

まれました。参加できてよかったです」「沖縄県連から、沖縄のみなさんの本当の気持ち聞いてよかったです。沖縄の痛みをもっと知り、知らせるべきだと思いました」「こういう集まりは必要。これからも頑張っていきたいと思います」などたくさん寄せられ、有意義な交流会となりました。最後に、生協ひろしまの虹のコーラスさんと「花は咲く」と沖縄の歌「タンポポ」を歌い、平和への思いを新たにしたいことを終えることができました。

被災地を忘れない、震災を風化させない 前進座「怒る富士」岩手公演で、思いあらたに……

7月22～24日、東日本大震災から5年復興祈念事業 前進座「怒る富士」岩手公演が開催され、県内約2千人が観劇しました。

「怒る富士」岩手公演は、盛岡地域で7月22、24日に3回、宮古地域で7月23日に行いました。各地域で実行委員会を結成し、実行委員会には県内の協同組合（生協、農協、漁協、森林組合）や市民団体、事業者が参加し、事前準備やチケットの普及、当日対応など、役割を分担しすめました。どの会場も開場2時間前から列ができ、入場を待つ人でいっぱいになりました。

来場者には次第・アンケート、協同組合の震災復興支援の取り組み紹介パンフレットを配布しました。その他、JA岩手県中央会やいわて生協の震災復興支援のパネルやタペストリーが会場ロビーに展示され、訪れたみなさんと一緒に被災地に思いを寄せました。また、盛岡会場では、被災地の復興商品（お菓子）を販売しました。来場者のみなさんの被災地への強い思いから、早々に売り切れ

ました。

公演は休憩を含め3時間5分の大作でしたが、その分感動も大きい公演となりました。

参加者からは、多くの感想をいただきました。いくつかご紹介します。

・大変感動しました。現代に通ずるものがありますね。

（盛岡市・60代）

・東日本の被災と重なり感動的でした。

（盛岡市・70代）

・新田次郎の原作を感動をもって読んでいました。舞台として素晴らしい芸術を発表していただきとても感激しました。

（盛岡市・80代）

・時宜になかった作品。さすが前



盛岡会場では復興商品を販売

進座！

（盛岡市・70代）

被災地を思いやる気持ち、企画がとてもよく伝わってきました。皆様の熱い思いがお芝居を通じて伝わってきました。

（宮古市・60代）

また、震災への思い、復興への願いもお聞きしました。いくつかご紹介します。

・バスの中から山田町の様子を見てきました。私の住む大槌町もようやく新しい国道が開通しましたが、家の再建には程遠いです。山田は国道もまだまだですが、遅くなる分、町民が快適な生活ができる町になればとひたすら願っています。そんな中で宮古市民文化会館は心の豊かさを大切にする場であり、こうして演劇・音楽を見たり聞いたりする面で大きな意味を持っています。みなさまの取り組みに感謝します。

（大槌町・70代）

・両親が福島で被災して岩手で3年半生活させていただきました。亡所とされた富士山麓と福島が重なって見えました。今も昔も政府のすることは同じであ

ると感じました。庶民のくらし

が大切なのか、原子力村の大きな力に負けてしまうのか。政治家の中に半左衛門のような正義を貫く方が現れてほしいと心底願いました。

（奥州市・40代）

・これからこそが支援が大切なき。多くの連携と協同で支え合っ

（宮古市・60代）

・最初の場面での音に5年前を思い出し、涙が出ました。いつの震災にも勇気をもって立ち上がった人々がいることに、前を向いて生きていく姿に感動でした。

（宮古市・60代）

今後も震災を風化させず、被災地を忘れない支援を継続していきます。



俳優さんと実行委員メンバーで記念写真

盛岡医療生活協同組合

盛岡医療生協は、病院・診療所・介護施設を運営しています。組合員は2万5千人余で、31の支部の組合員を中心に「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる。」を理念に活動しています。

健康で長生きしたいという誰もが持つ願いを実現しようと、「地域まるごと健康づくり」として、地域で保健予防活動に取り組んでいます。地域の住民と専門家が日常的に協同しながら、健康づくりをすすめています。私たちは「昨日よりも今日が、さらに明日がより一層意欲的に生きられる。そうしたことを可能にするため、自分を変え、社会に働きかける。みんなが協力しあって楽しく明るく積極的に生きる」という健康観を大切にしています。

職員を講師に医療講話や、まちかど健康チェックなど多彩な健康づくりを実践していきます。気軽に誰でも参加でき



「健康づくりフェスタ」で正しいラジオ体操を習得

る「健康づくりフェスタ」を開催し、多くの方が正しいラジオ体操などを学びました。誰でも実践できる取り組みとして、運動や食生活、禁煙など、自分で目標を決めて取り組む「健康チャレンジ」を呼びかけています。2ヶ月間チャレンジし、習慣化させるのが目的です。今年度は、少しの塩分ですこやかな生活を目指す「すこしお生活」（減塩）にも力を入れています。塩分摂取量が多い岩手県。あなたもチャレンジしてみませんか。

消費者信用生活協同組合

消費者信用生協では、組合員や地域住民の生活の維持向上のための資金の相談および貸付事業を、岩手県および青森県の地域で行っています。周知や利用促進のため、自治体の広報や町内閲覧板を利用した当組合貸付制度のお知らせ、様々な相談事例や解決方法を掲載したホームページのリニューアル、貸付にて解決した組合員にダイレクトメールを発送してきました。

加えて、生活困窮者自立支援法に基づく事業実施機関および関係する団体との連携を密にし、現在は支払い能力はあるが、過去の何らかの事情により一般の金融機関や貸金業者等から必要な資金の貸付を受けることが出来ない組合員および消費者に対して、家計相談を含む相談および貸付事業の強化推進を行っています。

7月には、ワンストップの合同相談会を開催し、多重債



「くらしの困った」を何でもご相談ください

務問題に限らず金銭に関して寄せられる相談や相続や交通事故、離婚やDV、精神疾患や依存の問題など、複合的な問題を抱えた相談に対応するため、専門機関との連携により解決のアドバイスをを行いました。今後はさらに組合員および消費者の生活改善向上につながる貸付制度の周知広報活動を強化し、心の支えになる相談を通じて生活再建のために取り組んでまいります。

■子ども医療費助成制度のさらなる拡充を求め、第二弾署名
第二次集約分を提出

6月14日、「子どもの医療費助成制度拡充を求める岩手の会」（県生協連は賛同団体、事務局・盛岡医療生協）は、「中学校卒業までの現物給付」「全額無料」を求める第二弾署名の二次集約分として1万2千筆を超える署名を県知事（対応は佐々木信保健福祉部長）に提出しました。第二弾の署名は4万6千筆を超えることとなります。



参加者からは「市町村によって独自に医療費の助成制度を拡大し、住むところによって差がある。岩手のどこに住んでも同じ助成が受けられるようにしてほしい」「県の拡充で市町村の拡充がすすんだ。さらに拡充をす

すめてほしい」などの声が出されました。

県からは「自治体で助成に差がある現状について、国も制度の見直しを含め年末までに結論を出すとしている。県としても引き続き国に働きかけ、市町村と意見交換しながらすすめていきたい」と回答されました。

■「安保関連法（戦争法）廃止を求める全国2千万人統一署名」岩手で18万筆を集約

「2千万署名岩手の会」（事務局・県生協連・県消団連・平和環境県センター・憲法改悪反対県共同センター）では、「戦争法の廃止を求める統一署名」に取り組み、岩手で18万筆を集約しました（目標20万筆）。

各組織・会全体では工夫して署名に取り組みました。お花見の時期に公園近くでの呼びかけ、土日の在宅率の高い時間に戸別訪問、返信用封筒をつけてポストインするなど、草の根で「戦争法廃止」の世論を広げ署名に取り組みました。

今後は情勢を見ながら、諸団体と一緒に「戦争法廃止」を求める取り組みをすすめます。

■身近な食から食の安全を考える
〜いわて食・農ネット

いわて食・農ネット（県生協連は事務局団体の一つ）では、激安米の試食や豆腐の表示・価格比などから、食の安全について考えました。

豆腐の表示比では、どの豆腐にも「遺伝子組み換えではない」という表示があるが、本当に全部そうなのか不安だという声が出されました。

話題として、輸入グレープフルーツの残留農薬検査を行い、国産の20〜5倍の残留農薬が検出された報告を聞きました。参加者からは「TPPで輸入が増えたら検査体制が追いつかないのではないか」という不安の声が出されました。

今後も身近な食から食の安全を考える企画を各地域で行い交流できるような考えていきます。



■岩手県生協連50周年記念事業
〜片山善博氏講演会を開催



岩手県生協連は50周年を迎えました。50周年記念事業の一つとして、「片山善博氏講演会」を開催します。

地域の自立、地方経済の創生について、東日本大震災から5年たった被災地や岩手の現状を踏まえ、提言いただきます。

参加は無料で、どなたでも参加できます。参加希望の方は事務局までご連絡ください。

片山善博氏講演会

「地域の自立と再生に向けて

〜真の「地方創生」を考える〜

11月11日（金）13時半〜15時半

岩手県民会館 中ホール